〇萌芽的研究・実践セッション(発表と対話)

〇主発表者：栗田佳奈(京都橘大学総合心理学部)
連名発表者：石山裕菜 (京都橘大学)

〇映像授業視聴時のうなずきとテストの重要度の認識の有無が記憶テスト成績に及ぼす効果

〇発表概要

本研究の目的は映像授業視聴時のうなずきとテストの重要度の認識の有無が記憶テスト成績に及ぼす効果を検討することである。実験は 2 要因 2×2 水準(テスト実施の事前通告;あり・なし、うなずき;あり・なし)の参加者間計画、所要時間は 20 分ほどであった。参加者は 60 名ほどで、一度に 3 名が実験に参加し、同じ実験回の条件は統一した。テスト実施の事前通告ありとうなずきあり群の参加者にはテストがある旨とうなずきを促すよう教示した。その後ビジネス用語を問う映像授業を視聴、テストを実施した。結果として、再認課題、再生課題両方においてうなずきとテスト実施の事前通告の交互作用および主効果は見られなかった。テスト実施の事前通告の主効果なしの原因は口頭のみの通告であったことから十分に注意を向けさせることができなかったこと、実験前の参加者の意欲の把握不足が考えられる。うなずきの主効果なしの原因は自然なうなずきの再現不足、課題の床効果が生じたことが考えられる。本研究の結果からは、オンライン研修や映像授業において、単純な行動的介入のみでは学習効果の向上が難しい可能性が示された。今後は学習者 1 人1人に合わせた主体的関与を促進する支援方法について検討する必要がある。